底地辛うどん開発、岐阜農林高生

旧徳山村の営み未来へ

JAに活動報告

これまでの取り組みと成果について報告する生徒たち＝岐阜市宇佐南、県農協会館

ダムに沈んだ旧徳山村(現揖斐郡揖斐川町)で栽培されていた「徳山唐辛子」を使ったうどん「底地辛(そこぢから)うどん」を開発した岐阜農林高校(本巣郡北方町北方)の生徒たちが岐阜市宇佐南の県農協会館を訪れ、JA岐阜信連関係者にこれまでの取り組みを報告した。

同校では、徳山唐辛子の種が本巣市で発見されたことから、2017年夏に同唐辛子を復活、普及させるプロジェクトを企画。唐辛子を粉末にして生地に練り込んだ乾麺「底地辛うどん」を開発した。

JA岐阜信連の支援を受け、インターネット上で資金を募るクラウドファンディングも活用。目標資金40万円を調達し、開発や鳥獣害に悩む生産地の保全活動に役立てた。

報告した食品科学科2年の奥田結夢(ゆめ)さん(17)ら4人は「開発当初は1人だった徳山唐辛子の生産者が20人になるなど、着実に成果は上がっている。今後も活動を続け、旧徳山村の営みを未来へつないでいきたい」と話した。(武藤直子)

無断複製・転載を禁じます